

## 発刊によせて

『研究 東洋』は、昨年度、本学儒学文化研究所と東洋思想研究所の研究成果を、新たな形で世に問うために創刊された。より広く、国内外の研究動向を視野に収めつつ、最新の研究成果の発信を目指して創刊された『研究 東洋』創刊号は、幸いにも広く反響を得られる結果となった。儒学を建学の精神とする本学の基本理念を踏襲しつつ、時代の課題と要請に応えるために研究領域を広く東洋思想全般に求め、学内外の研究者の成果を盛り込むことで、一定の成果を挙げたものと自負している。

儒学を始めとする東洋思想は、その歴史も永く、かつ広大にして深淵である。アジア圏には数多くの国々、様々な人種・宗教・倫理そして固有の歴史が存在する。それらアジアの伝統的叡智を、一朝一夕に学び尽くすことはできない。また日本国内に限ってみても、古来より独自の文化・思想を育んできた歴史がある。われわれ日本人は、今一度、アジアと日本の文化と思想を振り返ってみることが求められていると思う。まずは、日本の歴史を知り、日本人の心を理解すること、またアジア諸国との歴史的な交流の軌跡を丹念に辿りなおすこと。こういった知的な営みは、急速に変化を遂げる時代情勢からすれば、ともすれば迂遠で、遅々とした歩みに見えるかもしれない。しかし自らの住んでいる国の歴史や文化を、またアジアのそれを大事にしなれば、われわれのアイデンティティーは見失われ、真に新しい創造もなしえないだろう。グローバル化の世界を生き抜くためには、様々な主義や主張を、自分の力で判断し、取捨選択する精神の基軸を必要とする。それは安易に得られるものではなく、決してない。

この『研究 東洋』が、本年もまた、多くの研究者の協力により発刊されることを心から喜びたいと思う。第二号が、東洋思想の学術研究に微力ながら貢献することができれば、これにまさる喜びはない。

平成二十四年三月吉日

東日本国際大学  
東洋思想研究所長

松 岡 幹 夫